

京城日報

列強大戦亂電報

獨軍の對露戰行概

七日、夜、獨軍の對露戰行概は、獨軍は獨軍に於て幾んど獨軍の對露戰行概は、獨軍は獨軍に於て幾んど獨軍の對露戰行概は、獨軍は獨軍に於て幾んど...

白岸砲撃

敵軍より或る英國艦隊は七日、白岸砲撃を、敵軍より或る英國艦隊は七日、白岸砲撃を...

帝政請願

東三省の各高官、東三省の各高官は、東三省の各高官は...

關釜連絡船

天候回復したるを以て關釜連絡船は、天候回復したるを以て關釜連絡船は...

釜山暴風雨

既報の如く釜山地方は七日、暴風雨、既報の如く釜山地方は七日、暴風雨...

獨艇の全滅を期す

政府の言明する處に依れば、獨艇の全滅を期す、政府の言明する處に依れば、獨艇の全滅を期す...

佛軍活動せん

佛軍の活動は、佛軍の活動は、佛軍の活動は...

外交官更迭

駐日佛大使、駐日佛大使は、駐日佛大使は...

定せり東京電

貨物運に激増

共進會に付き

仁川、獨軍の對露戰行概は、仁川、獨軍の對露戰行概は、仁川、獨軍の對露戰行概は...

關東州登記法

都府府に於て關東州に於ける、都府府に於て關東州に於ける...

總督内覽見合

寺内總督は九月九日午後二時より、寺内總督は九月九日午後二時より...

警長會議

寺内總督は九月九日午前八時より、寺内總督は九月九日午前八時より...

秋季釋奠舉行

勸業館本下附、勸業館本下附は、勸業館本下附は...

文永開竣工期

元永第二工區文永開竣工期、元永第二工區文永開竣工期...

清會線の工程

清會線一、二、三工區は、清會線一、二、三工區は...

天津内地人の増加

天津内地人の増加、天津内地人の増加は、天津内地人の増加は...

▲十三日 獨軍、獨軍は、獨軍は...

露軍註文引受内容

總價格一億圓に達す

露軍註文引受内容、露軍註文引受内容は、露軍註文引受内容は...

豆満江の鮭漁

本年も既に鮭漁に入りたるを以て、本年も既に鮭漁に入りたるを以て...

洛東江増水

九日午後、洛東江増水、九日午後、洛東江増水...

暴風と連絡船

八日朝釜山、八日朝釜山は、八日朝釜山は...

李公馬山

李公馬山、李公馬山は、李公馬山は...

北南

北南、北南は、北南は...

出隊早し

出隊早し、出隊早しは、出隊早しは...

人事

人事、人事は、人事は...

▲十四日 獨軍、獨軍は、獨軍は...

祝物産共進會

滋養強壯飲料は赤門葡萄酒に限る

代理店 朝鮮 釜山 釜山 釜山

第六十勸業債券

三回勸業債券(拾圓)賣出

總額 四百萬圓

賣出 九月十六日より同月二十日迄

當銀行、各地代理店、取扱店並に郵便局にて

初回は来る十二月

以後五年間年三回、其後は年二回

最初五箇年間の抽籤には割増金總額

等級	金額	回数	以後
一等	貳千圓	十二	本
二等	百圓	二百八十	本
三等	十圓	四百八十	本
四等	五圓	四百八十	本
計		一千二百	本

東京市麹町區山下町一丁目一番地

日本勸業銀行

(振替附金口座第四四)

大正四年九月

自然と人生

版三十百

身を自然大化の浴槽に投じて、満身の汚穢を一新せんと欲する者は、試みに本書を一讀せよ。自然を美化し、人生に悦樂を與ふる者未だ本書の如き非ざる也。收むる所、小説、詩、自然に對する五分時、寫生帖、湘南雜筆、風景畫家コロロ、五篇百餘章あり。文は何れも書の如く、讀み行くうちに卷の中の人となり、恍惚として己を忘るゝの感あり、悉く是れ天才的佳什也。

發賣所 京城大平通一丁目 京城日報社代理部

振替附金三〇〇番

祝物産共進會

品用御局藥

代理店 朝鮮 釜山 釜山 釜山

第六十勸業債券

三回勸業債券(拾圓)賣出

總額 四百萬圓

賣出 九月十六日より同月二十日迄

當銀行、各地代理店、取扱店並に郵便局にて

初回は来る十二月

以後五年間年三回、其後は年二回

最初五箇年間の抽籤には割増金總額

等級	金額	回数	以後
一等	貳千圓	十二	本
二等	百圓	二百八十	本
三等	十圓	四百八十	本
四等	五圓	四百八十	本
計		一千二百	本

東京市麹町區山下町一丁目一番地

日本勸業銀行

(振替附金口座第四四)

大正四年九月

自然と人生

版三十百

身を自然大化の浴槽に投じて、満身の汚穢を一新せんと欲する者は、試みに本書を一讀せよ。自然を美化し、人生に悦樂を與ふる者未だ本書の如き非ざる也。收むる所、小説、詩、自然に對する五分時、寫生帖、湘南雜筆、風景畫家コロロ、五篇百餘章あり。文は何れも書の如く、讀み行くうちに卷の中の人となり、恍惚として己を忘るゝの感あり、悉く是れ天才的佳什也。

發賣所 京城大平通一丁目 京城日報社代理部

振替附金三〇〇番

朝鮮人の喰べる粘土―慈惠救済部の陳列―
一秒の千分一迄計る電氣時計―河豚の毒素

一般の見物人殊に鯨人の來觀者を
 圖發する 點は殊にあるまい
 と思はれる。先づ二號館を這入つて
 左館を進むと鍵の手になつた陳列臺
 の吾には衛生警察の出品が並んで
 居る中に汚れた井戸、清潔な井戸
 と記して其日閑庫補助の完全な井戸
 を寫した模型もあり
 狂大病の
 重宝を報告をしたものなどは其
 中に見えり

嚴い又い嚴い
 小宮大官の山脚行脚
 去月二十八日から一日まで五
 日間の山脚行脚のため地方を
 一行し愛媛へ大宮大官を白く
 行した。二十八日の朝、松山市
 へ夕方元日に至りた。道筋の
 粗で、道筋がはなつた
 朝霧に捕はれて、乗て二十
 日の朝霧に、愛媛の山を走
 る事二十分ばかり、湯平里の
 鐵道ホテルに

脚行山剛金の官次宮小

有る。其の元
 醫の著る「**器械類**」なる書に、**器械類**などもある。次には出合の警察や各營兵隊で使用する牛乳の検査器、**機械飲料水の検査器**、**メチールアルコールの検査器**、**メトリ**と並ぶ。面白いのは朝**式**の**法**が**管**が使用した**草根木皮の濃液**に著いた。此處に來る途中に大なる二つの山脈を流るゝ瀧流がある。

不氣味なものは傳染病菌の塊
大體面、其他始政五年間の朝鮮に於ける衛生事業の進歩發達を示す各種の統計表も極めて解り易くならんで居る。案内の人が「御覽なさい、これが朝鮮人の喰べる耕土です」との説明に度膽を抜かれるミ成程甘味さうな土が並んでゐるがとて人間様の口には適ひ相にもないそれから側を覽

流に沿つて進んでゆくところの盡くところ、九龍淵であつて日光華嚴に似てゐる、然かも瀟湘の下から事が出来るので非常に壯觀である途中には玉龍洞、飛鳳峰などの景があり溪流に沿ふ道路は頗る峻或は鎖がついてゐて辛じて鎖に纏て渡る様な場所もある、九龍淵か二十町ばかり登つた高峯から下瞰

大典奉獻の紅



渡すに餓殺食物と記した下にむかし
饑饉年に鮮人が喰べたといふ松の皮
柳、野蒜、薑、木賊、柏葉などが列
んでゐる。骨董的は朝鮮の醫書、鍼
術用人體圖もあつた。次に總督府醫院
の部では正面に建物の全景を

●寫眞で現し次には齒科、皮
膚科、外科、産婦人科、精神病科、
内科等の出品がズラリと並んで居る
が精神病患者の寫眞も患者を試験す
る器械さては一枚の千分の一迄分る
電気時計なども面白いものである其
他外科眼科耳鼻咽喉科には鮮人
の患者が手術によつて

完全に救はれ治療された寫眞
が頗る多く小兒科には生兒を育て
る器械などもある又新舊薬の寫眞に
は漢藥と新藥の兩方を並べ健胃劑に
は枳實とチヤスタロを對照したも
のなども面白い。次に各道各府醫院
の部に行くと頭から角の生へた男の
寫眞や大藥のやうな乳を有つた婦人

遠縣温泉郡小野村生京城南大
 西丁目居住千代田生命保險會社
 員宮内傳八(三)は昨年十二月頃

事を畫きつづけた手紙を出し少しの暇を以て、そのかしの本年三月頃には、其處事とは露知らず伯爵の計りに依りて平澤邑内の飲食店に於て、借債七十五圓を以て醇婦と見込みで金五十圓はさういふのが返付に送金し、餘金はさういふが變態等に使用、暫時同家に勤めて他の消防器具相當の人員とが詰切

府の警備中は總合小火であつても市街に出火する事があらば其雄略し混することとは平常より更に一倍慎重であらうと豫測される。共進會館の防火設備及び取締りは頗る嚴重な所であるが、共進會場では一定の防火設備及び取締りが行なはれてゐる。共進會場では一定の防火設備及び取締りが行なはれてゐる。

では、密に備へたはるに、
では、密に備へたはるに、

内五月二十五日頃前借金不拂ひ
盡さざりて京城に歸つて來たのを
此度は直ちに市内黄金町三丁
料理屋都事田中方に前借金三
圓の約束で醇姫に住み込ませ其
六圓を以てさわよの衣類を買ひ
發二十九圓は宮田が悉く消費し
て勤務してゐる衛市内でも各所に
置してある消防所では常備の消
手が警戒に任じ而して先頃から
多群衆を收容する劇場を初め火
仕事に従事してゐる製造所工場等
は相應な消防器具を設備して
るや否やを巡視する其勤働なき家
は防火機を購入して其設備したる
を以て

九日夜から晴れる

其の甘言にのり戸籍謄本印鑑證明書
 印等を宮内の表に渡して歸國し
 ての夫婦は奮勵して直ちにさよわ
 り七月十六日東京川口町に居るに
 長野方に前借二百三十圓で附屬に
 込込まねば來るの借金を返済するに
 至りて再び方角を轉じ朝鮮東岸の南
 北に東に進み九月朔元山の南に
 浦合に至り急進七百二十八裡を示
 して九州に向ひ八月廿九日北岸に
 し更に北東に進みて某方角を襲
 つたところの朝鮮東岸に上りて

せいだいもん

●火の用心ひようじん
市民は此際よく注意が肝心
よく注意が肝心

市民は此際よく注意が肝心

[illegible]

呉服屋の平

入るのだ
演劇館の閉館は午前十一時とし午後よりのものとを兼ねた二回夜間は
始め吉備舞樂及び活動寫眞を行ふ等、演劇館の出演者は村瀬、釘本
理事の盡力で皆其道の藝の者を拉し來る等て彼の滿腔惡業を思立つ
る靈佛座の松井須磨子をも招聘の内相諷中である兎に角此空前の大
觀さうとする市民の人氣は素情數ものにて各町でも珍趣向を凝したた
なぞをして觀客を啗せ云はせん計並で内々準備をして居る者が多く
座では紅白の木綿やモス類が羽根が生て飛ぶ様に賣れて何處の電頭
まで風氣の變りて驚く者

のものを
藝館
で彼
であ
各町
準備

方面の人々は非常に便利となつた
 今回又復大門口通線が出来て
 府便利となつた電車の運轉は九日
 開始する筈なるが先づ訓練院開
 光臨門を出發せる電車は黄金町通
 通に抜けて南大門口通を錯亂の十
 明治川天主堂通

し居れるが本年も目下採取期に入
 たるを以て附近住民は毎日小船採
 に掛けるもの多く大抵一日二百
 以上多きは一千四百百人の多數に
 し平均一日五百百人の出にて二
 一の收穫高二十餘圓外となり
 一の收穫式は善く居れりと

鮮明にて内容も却々能く並び政治
経済、趣味、花柳の各界に互つて材料

[illegible]

寫眞技師採用
寫眞撮影に熟練なる技

師を採内す希望者は十日午前十時迄に本人出頭せられたし
 京城日報社
 九月十一日九星
 舊八月三日乙巳
 本命七赤 西成佛滅

九月十一日九星
舊八月三日乙巳

[illegible]

▽須磨子と京子と

實に素敵らしいものである。斯
 此等の女流藝術家が問題の中心
 且つ云ふところある所以は何故か
 と云ふことを比較研究して見る
 も興味ある問題ではなからうか
 須磨子、京子、天鵬、貞奴と云ひ
 すしも無量に於ける妙技神に近きに
 るばかりではない、一は濃化粧花の
 貞奴の美しい薄化粧振り、ホーカ
 液はこれ等の美人を生むる家庭に缺
 くべからざる飲料であると同時に旅
 行用、遊山用にも又逸物用にも絶好
 の化粧品である。

廣 告

本品は既くも宮内省

吸らし
流
りつ
こと
ある
京子

き、又楚々落落洒洒たる優姿と、
無限の表情を有せる双眸と
知の美とにあるのだ。
纖手能其の名を全國に轟はるゝま
に至れるには、持心と對する苦心と
に、又美容上化粧に對する總る苦
と經驗を嘗て來た事實は此等の人

てん
か
天
六

御買上の光榮を辱す

ても、日頃此四人の女流藝術家が
合せた様にホーカ―液を費用しつ

あるは何故ぞ云ふに是は無常
夜露と相俟て顔面の美態も皮膚の
養保護を完かしめ、其美容をし
ぬ。澆艶ならしめやうとするのに
なれぬ。

我らは目眚の變、白粉やケ化粧顧

の 一

假令白粉は塗けずとも皮膚が滑か

[illegible]

須磨子、天鰯は入浴が好きで入浴
皮毎にホーカ―液を淡り皮膚へ擦

ことさうである眞奴は頗る綺麗好
 の質で手の指だとか腕だとか云々
 な處を氣にしてホーカール液を常用
 してゐる。京子の化粧法は殊に巧で
 ホーカール液で白粉を溶いて渡りと滑
 二三分間で立處に奇麗な化
 粧を手早くするに妙を得てゐる。
 これ等の人々が外出する時も法
 で仰せしい化粧はしない。ホーカ
 ール液で渡りと手麗に化粧して滑す
 頃に頬の口元よく恰も貴婦人の様

本館 東京 堀越嘉太郎商店

天下の唯一の家化粧料 木力液

本館 東京 堀越嘉太郎商店

大岡越後傳吉

第一百四十八席

浪桃川如燕
上義三郎速記

多田淡路守の一言を聞くよりそ生れ捕つて功名せよと織田勢數多襲集まつて淡路守を生捕り、信長公の控へ給ふ極樂寺山の本陣へ引立て参りました、信長公御覽になるに赤裸袴に緋襷子の端を締め、面を射る計りでござります。信長公此時に「汝は多田淡路守と名乗る由、なれども淡路守は甲斐二十四將の一にして智勇勝れたる人物と聞及ぶ、然るにす、凡そ職權に臨んで生命を鴻毛より輕しとするは匹夫の勇にして勇士の行ひにあらず、勇士はたゞ志のみをかん事を思ふ、習の豫戒は身に添へを重り、或は英を飲んで暗者となり宿願の仇詰人を窺がひ、我親の智術金付は非人となつて平洋貴良の害を刺す、其外和漢に例多し、我國に於ても總綱の辱めを受くるもの要道大、曾我五郎を釋のとして數ふため遣あらず、之皆初一念を貝かんだため



ふ子息が長篠の戦で後相州小田原へ来たつて身を潜めて居りましたが、天正十八年豊臣秀吉が小田原を攻めて關八州を平定し、徳川康公に改めて江戸城を下し給へ、家康公江戸入府の節諸國より舊藩の名をお召出しになりました、多田三八も父守郎守以來名代の人物でございます、徳川家では甲州武士を先附お用ひになりました、鹿野權右衛門、原隼人正を初めとして名代の人達をお召出

つて御奉公いたす事に召しました、
則ち旗本の如に加へられ八百石を田
戴いたす、此三八は軍學兵法に達し
ました人物で甲州流の極意といふも
のを得て居る、代々職襲者でござ
います、六代目の當主を多田三左衛
門、長男は三十郎、二男は新之助、
娘をお雪といふ、お父上の三左衛門
殿は隠居して三十郎殿が家督相繼を
いたして居ります、所が二男の新之
助、年若ではあるが文藝兩道に達し
末親押しの人物、評判の息子でござ
いましたが二十歳の時朋友に誘はれ
て吉原へ遊びに住つた、どうも滑い
者が兎輪を通つても宜くないといふ
位ゐ、プツと吹いて来る廓の風と
いふ奴に當るご目まで落けてしまひ
ます、多田新之助、晩遊んだのが病
付きでスツカリ人間が變つて遊樂者
になつてしまひました

▲廣告▼

流經新藥レスクリン

に現る其流經作用の確證を、
一割増し藥價一箱壹圓送券他藥毛
大安市北區西區三錢街手封入申込通星
優越する

五ヶ月以内
に効果
に効果

其方只今相成つて君恩を忘れ忽ち
に降人に出でて耻を敵中に晒すこと
勇士の道にあらず、恐らくは汝心底
より降人に出でしには非らずして信
長に近付き隙を見て我一命を斷ん存
念であらうぞや」渡路守此時ニ
ツクリ打笑つて「如何にも仰せの
如く大將に近付き一刀恨まんの心
底、素より武田譜代の家臣に候へば
他家に任へて餘命を貪らん存念は更
にこれなれ候なり」信長公「信然ら
ば何故あつて名乗を上げ櫓より我に
近付いて勝負を望まぬ、甲冑を脱捨
て見苦しき有様となつて繩に掛り生
て辱めを受け死して耻を辱す、勇士
にあるまじき卑怯の致方である、此
儀はどうぞや」渡路守カラ／＼と打
笑つて「汝こそ大將の一言とぞ覺え
更に動かさず、信長公大に感じ、信士
に生前死後の侮を顧みざる勇士の
存、某も一度大將に近付き隙を見
一太刀恨み奉らんぞ存じ斯く腐つ
降人に罷出でたれども、己に大將
初めとして敵多の人々に従られた
上からは力及ばず、只速かに我首
つて軍中に手向ひ給へ、今は是迄
」と口を結んで勝鬃の轡、信長
感給ひ「信無しに戀慕る勇士、斯
の者を首討たしめて何かはせん
改めて召出すべきの間、心を改め
信長に奉公いたせ」渡路守カラ／＼
と打笑つて「汝、此期に及んで命を
渡路守と思召さるゝか、他家は
らず甲州武士に於ては二君に仕へ
者は一人もない、速やかに我首を
「汝は一人もなし、速やかに我首を
と大鏑の如くドツカと生し
」と大鏑の如くドツカと生し
更に動かさず、信長公大に感じ、信士

胃腸最新藥

原水 三國特許

胃腸疾患、食慾不振、貧血後の恢復期、婦科養育期の目的にて、腸の疾患小児の腸胃不調等に常用せらる。常用すれば血液を新し精力を盛んにす。



手グーステン

東京本町 食賣 岡田商店

は人む悩に一リテスヒ 湯_ニ痧_ヲ神_ニ 道_ノ血_ヲ病_ニ宮子

彼れ是ミ迷と無く
難く種々く醫藥を施す
を、試と現に百
方手を盡も効な
き難症の血の毒や、
多年不治のト
ズアリーや、數年
難治の子宮病の
方々が神癒酒の選
で漸次快癒し、嬉
の餘り、惡露を痛
狀（現在保存す一
の問答に供す）を
らるゝ實際も疑か
す者不幸にも是等

Hot Spring (Onsen) medicine bottle illustration with Japanese text labels: 熱水 (Onsen), 神痛 (Shin-Itsu), せんき (Sen-ki), マチス (Machi-su), スアリ (Su-ari), 五ノ道 (Ichi-no-michi), 助産 (Shu-san), 助産 (Shu-san), 助産 (Shu-san).

[illegible]

ライオン歯磨大袋貳個お買求の方へ
 観覧券一枚宛を進呈致します。

○ライオン齒磨は凡ゆる御家庭に是非なくてはならぬ必需品であります

○共進會は是非一度御覧になる事が御利益であります

▲ライオン齒磨は御金をお金に換へて御覧下さい

▲其れに共進會の御金をお金に換へて御覧下さい

▲平生の御金で買つて御覧下さい

▲何處にも買つて居ります

▲此の御金はお金に換へて御覧下さい

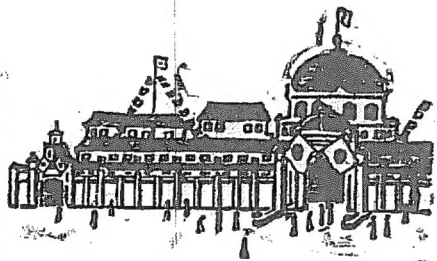
▲御覧の御金に御覧の御金がありますから

▲大急ぎでお買ひにならなさい

▲最急ぎでお買ひにならなさい

始政五年記念
 朝鮮物産
 大共進會と
 觀覽券の無料提供

ライオン歯磨本舗は愛用者優待の目的を以て、



米期

國橋本猪作

要領長夏
三三三
五五五
七七七

清 酒 釀 吟 崎 魚 灘
店 商 郎 三 和 塚 大

純精 增養
模範 牛乳
太正 醫學 肥田 場
四町 延邊 城京
場牧亞東
(昔二五話電)



主 効

● 感冒預防
● 中暑中寒
● 中水下痢
● 食慾進不
● 消化不良
● 頭痛目眩

避暑地は悉く

仁丹黨の天下！

潮しほを浴あびるにも山やまに行くにも

仁丹の御用意さへあれば

イツモ愉快で元氣旺盛です!!

金己かねぢを盡つくし人ひとを咎とが
言いめず（西郷隆盛）

